

# 「上山城」からのたより春・第177号

## 学芸員のお仕事紹介（その二）

（公財）上山城郷土資料館学芸員 長南伸治

前号に引き続き、「学芸員（歴史系）」のお仕事について紹介させていただきます。

まず、前号の繰り返しで恐縮ですが、学芸員とは資料（地域や人々が刻んできた歴史を留める事物。その分野は歴史・芸術・自然など多岐にわたる）の①収集・②保存、および、それらを用いた③研究・④普及活動（展示や講座）を行う職業となります。前号では「①収集」を取り上げましたので今回は「②保存」について紹介させていただきます。

①収集で集められた資料には長年降り積もったホコリや虫や動物の排泄物（オシッコやウ○コ）等の汚れの他に、資料にイタズラ（食べて穴をあける・腐食させる）する「小さな敵」虫やカビなどが、おそろくいや、間違いないで大量に付着しています！その状態のまま資料を収蔵庫にしまえば、それらの「小さな敵」の魔の手が全体に飛び火し、庫内の資料が丸ごとダメになってしまう危険性があります。

それを防ぐためには「燻蒸」が必要となります



上山城収蔵庫内の様子

す。燻蒸とは特殊ガス「エキヒュームS」で「小さな敵」を撃滅する作業（作業は専門業者が実施）となります。ちなみに、このガスは高価、かつ、人体に大変有害（吸い込むと死にます）です。「それならバルサ○とか使えばいいんじゃないん？」なんて思う方がいるかもしれませんが、下手なガスでは「小さな敵」を撃滅しきれないどころか、資料が変色するなど取り返しのつかない事態が発生します（「エキヒュームS」は高い殺傷能力と資料に悪影響を与えないことが科学的に確認されている稀有なガスなのです）。

さて、燻蒸を経て生まれ変わった資料は収蔵庫に納められ、その後、展示・研究など様々な用途で活用されていきます。資料を納める際は庫内のどの棚に置くかを定め、その記録をつけておきます。この作業を怠ると、遠からず「紛失」という、学芸員として「切腹」ものの事態が生じてしまいます。ちなみに、上山城の収蔵庫内の資料は、私の着任当初はどこに何があるかさっぱりでした。そんなわけで、現在に至るまで、着任以前・以後に受け入れた資料の置き場所を定め、資料が紛失＆痛まないよう適切に収納していくという地味な作業が続いています。

以上が②保存の仕事です。次回は「③研究」についてお話しします。またしても、乞うご期待していただければ幸いです！

【常設展示室から】抽選で景品が当たる、クイズ上山城探検、を毎月実施中。クイズを解きつつ、ご見学をお楽しみください。